

# 地元北海道に凱旋入団



## 中大のエース 鍵谷陽平投手、

### 巨人・沢村先輩との投げ合い、来年5月19日の交流戦か



有力選手が集う北海高入学時、軟式野球出身は部員20人中3人だった。ほかはリトルリーグ野球などでプロ野球に近い硬式球を握っていた。“後発3人組”の中央大学法学部4年の鍵谷陽平投手が7年後にプロ入りを果たした。プロ野球ドラフト(新人選択)会議が10月25日夕に都内のホテルで開かれ、同投手がことしのパ・リーグ優勝チーム、北海道日本ハムに3位指名された。中大多摩キャンパスCスクエアに設けられた記者会見場では、中大・秋田秀幸監督らと会場客席最前列に座り“運命の時”を待っていた。

カメラマンの要望でガッツポーズをする鍵谷投手、心底の笑顔を見せた



指名受けるまで  
1時間18分



2012年のドラフト会議は、今季限りで現役を退いた金本知憲選手(阪神)の言葉で幕を開けた。

「多くのプロ野球選手の誕生を、心より歓迎します。大きな志を持って、プロ野球界に飛び込んできてください」

阪神の鉄人がスクリーンに映し出される。中大Cスクエアでは紺のジャケットに身を包んだ鍵谷投手が15人ものカメラマンに囲まれ、吉報を待っていた。開会の言葉からずっとピクリとも動かない。握りこぶしは、時々滴る汗を拭く程度で、あとはおとなしく両ひざに置き、座っていた。

力が入っているのだろう、ジャケットが



指名まで緊張続きだった

# 日本ハム3位指名受ける



神宮で投げる鍵谷選手(写真提供=中大スポーツ)

背もたれにのしかかり皺をつくっていた。ギラギラと光るカメラの目、取材記者の目、野球部員の目、一般学生の目…みんなが鍵谷投手を見つめていた。

午後5時。ドラフト抽選が都内のホテルで始まった。「ソフトバンク 東浜巨」(東洋大投手)「阪神 藤浪晋太郎」(大阪桐蔭高投手)「中日 福谷浩司」(慶大投手)「日本ハム 大谷翔平」(岩手・花巻東高投手)「巨人 菅野智之」(東海大投手)…各球団の監督らが次々と大物選手を指名していく。

アマチュア球界で切磋琢磨した仲間がプロ入りを決めていく中、鍵谷投手の名前は呼ばれない。スクリーンのテレビ中継は1巡目で終わった。同5時23分。「石原都知事が辞職、新党結成 衆院選出馬へ」「園遊会にロンドン五輪代表の吉田沙保里(レスリング)、松本薫(柔道)両選手が出席」といった一般ニュースの後、画面はインターネットの速報サイトに変わる。

握りこぶしは、もう、おとなしくはしていなかった。膝の上でバタバタと動き、閉じたり開いたりを繰り返す。その後ろで、野球部マネージャーと後輩たちが頭を寄せ、小さなパソコン画面を祈るように

見つめる。

指名が気になるCスクエア。ざわつく中で音もなく更新だけが繰り返された。心を表わすジリジリという音が、会場から聞こえてきそうだった。2巡目は同6時17分に終了。ドラフト会議は3巡目に入った。

同6時18分、Cスクエアの片隅で後輩たちの歓声が上がった。手元のパソコンを見て、「あった!」「日本ハムだ!」。スクリーン画面がすぐに追いかける。日本ハム3位指名欄に「鍵谷陽平 中大投手」の名前が刻まれた。

会場が拍手で喜んだ。会議開始から長かった1時間18分を経て、地元北海道の球団、夢のプロ野球入りが決まった。

鳴りやまない拍手と歓声の中、鍵谷投手は最前列から振り返り、会場に大きく一礼をした。上げた顔は、こわばっていた。クジャクが羽を広げる時のような、大きく息を吸ったまま、そのまま吐けなくなったような、全身が今、奮い立ったよう

な、そんな、表情だった。

「指名がかかるまで時間があったのでドキドキしていました。今はホッとしています。すごく光栄です。これまで自由にさせてもらった両親に感謝します」

決定した瞬間の気持ちを話すと記者からプロ入り後の質問が待っていた。

「背番号は何番でもいいです(30番に決定)。先発でも、抑えでもいい、任せられたところで、しっかりと仕事がしたいです」

取材陣への質問に一つ一つ丁寧に答える。答える声は落ち着いていたが、掴み取ったチャンスに、食らいつくような勢いがあった。首筋にびっしょりと汗をかき、ジャケットの背中には、背もたれでつけた皺が残っていた。

「飛び込む」という言葉は、どこか必死さを帯びている。同じはなむけの言葉である「羽ばたく」や「歩み出す」よりも、いっそう鋭くまっすぐで、一生懸命な響きがある。

これから始まる新しい生活に、苦難や障害はつきものである。どうかそれを恐れずに、まっすぐに飛び込んでほしい。

(学生記者 関いづみ=文学部2年)

## 努力が報われた

中大・秋田秀幸監督(元プロ野球中日内野手)

「小さいころからの夢だったプロ入りがなかった。それも地元球団。ご両親も喜んでいらっしゃいます。努力が報われた。野球に取り組む姿勢が素晴らしい。これからプロに入って大変ですけどすぐに慣れる。ほかと見劣りはしない。プロは猛者ばかりだから、もっと努力し頑張って、野球界を盛り上げてほしい」





## 巻頭特集

地元北海道に凱旋入団 中大のエース鍵谷陽平投手、日本ハム3位指名受ける

### 中大でパワーアップした一道新記者

北海道新聞東京報道センター・日本ハム担当記者 実松(みまつ)充洋さん

「先発完投型投手として、自身の地元にある北海道日本ハムから指名された。函館の隣の七飯(ななえ)町出身で、札幌の北海高を甲子園に導いたエースは中大でパワーアップ。プロでも活躍が期待される」



### 時給860円のアルバイト—中大職員

中大入学センター 大久保陽造さん

「彼との出会いは4年前の北海高校でのガイダンスでした。指定校推薦でも入学できそうな優秀な成績で、一番前の席に座って熱心に中央大学の話に聴き入っていたのが印象的でした。」

中大入学後も文武両道の手本のような勤勉ぶりで、4年進級時には卒業要件の単位数をほぼ満たしていたようです。今後のいい経験になると思い、入学センターでアルバイト(時給860円)をしてもらったことがあります。2週間程度の期間でしたが、願書や書類の整理、各種通知発送や読み合わせ作業などをコツコツと丁寧にやってくれました。普段から礼儀正しく謙虚な好青年で、リーグ戦で152kmの自己最速を計時しプロからの注目度が高まった時でさえも、『自分はコントロールが身上の投手なので、スピードに自分自身を見失わないようにしっかりとコントロールを磨きたいと思います』と話していたくらいですから、周囲の人間は自然と彼を応援したくなりますね」

### 陽平君はマジメ—いとこの中大生



いとこの中大文学部3年 田村梓織さん

「お互い函館育ち、小さいころはお正月によく会っていました。三姉妹の真ん中の私にはお兄ちゃんのような存在です。私の中大入学式、両親は仕事があって上京できませんでした。事情を知った陽平君が“ご飯食べに行こう”と声をかけてくれました。野球部の人と6人で焼き肉屋さんへ。試合はことしの秋季シーズン開幕戦を神宮のスタンドで初めて見ました。バックにエラーが相次いだのに怒るわけでもなく表情も変わらない。思いやりがあって、真面目な性格です。プロ野球の指名が地元球団の日本ハムですから応援にも力が入ります。私はアナウンサー志望です。陽平君がヒーローになって、球場でインタビューできるようなになれば楽しいですね。私も頑張ります」

### 皆さまに感謝します—父親

北海道七飯町の父親・鍵谷幸一さん

「陽平は子供のころからスポーツが好きで夏は野球、冬はスキー。小学3年か4年の冬、ジュニアのスキー資格をみんな取ってしまったころでしたか。一緒にスキーへ行きました。ゲレンデで陽平がサーッと先へ滑っていく。そのとき顔がこちらに見えた。えっ。普通は背中が見えるのに、前と後ろを逆にしてスキーを付けていました。かなり怒りました。」

野球でうれしかったのは高校野球で甲子園大会に出たときです。3年の夏。初戦の東邦戦(愛知)で先発し、初球をホームランにされた。あれっ誰もボールを捕っていない、どこ行った?って探しました。心に残っています。陽平はあの時の試合のビデオだけは見ていないと思います。ショックだったのでしょね。

ドラフト会議で指名をいただいてホッとしています。野球部の監督さんや周囲の方々、先輩・友人に感謝申し上げます。日ごろ応援している地元球団の日本ハムには縁を感じます。北海道に日本ハムが来てからメディアの取り上げ方が大きくなりました。私の周りにもファンが大勢います。北海道日本ハムになってから、チームの道産子投手に勝ち星がないと聞いていますので、楽しみにしています」





## 鍵谷投手と一問一答

記者会見で記者の質問に答える鍵谷投手。矢継ぎ早の問いかけは約10分間続いた。

### ——プロ入りして1年目の目標は

「大学卒ですから即戦力として期待されていると思います。1年目からしっかりやっていきたい。チーム内の競争が激しいと思いますが勝ち抜いていきたい」

### ——そのためにもこのオフは大切ですね

「プロではアピールしなくてはいけませんので、来年1月の新人合同自主トレーニングですぐに動けるようにしたい。いま試合はなくても、しっかり野球に取り組んでいきます。沢村さん(中大で2年先輩の巨人投手)がしていたように、僕もきちんとして後輩たちに後ろ姿で教えていきたい。何があるか分かりませんので、けがに気をつけ、私生活もちゃんとしていきたい」

### ●「おかわり君」と勝負

#### ——プロに入って対戦したい打者は

「西武の中村選手。日本を代表するバッターに自分がどれだけ通用するか試してみたい」

(おかわり君と呼ばれる中村選手はパリーグの2年連続本塁打王=27本、昨年は48本)



#### ——地元の球団、北海道のファンに向けてメッセージを

「マウンドやプレーで、1日でも早く名前を覚えてもらいたい」

#### ——栗山監督の印象は

「すごく頭がよくて、誠実なイメージがあります」

#### ——憧れの選手は

「一番に挙げたいのは、増井投手です。セットアッパーとして1年間働いた。数字を残しているし、尊敬しています。ストレートで押すピッチングが自分と同じかなと思います。ダルビッシュさんも憧れました」

(増井浩俊投手は2009年ドラフト5位入団。静岡高一駒大一東芝。181cm、70kg。背番号19。今季は73試合に登

板、71回2/3を投げた。5勝5敗7セーブ、防御率2.76。中継ぎの勲章44ホールドはリーグ新記録。奪三振69とピンチで三振が取れる速球派だ)。

### ●東浜投手に勝つ

——東都大学のライバル、東浜投手(ソフトバンク)との投げ合いをファンは楽しみにしています

「3度対戦して1度も勝っていません。プロでは勝ちたいです」

#### ——沢村先輩(巨人)を見てきて

「ずっと背中を追いかけてきました。練習のすごさ、ひたむきさに圧倒されました。指名を受けた夜に電話で報告をしました。“プロ入りはゴールじゃないぞ、1軍で投げて勝って初めてプロ野球選手だ”と励まされました」(沢村先輩との投げ合いはセ・パ交流戦で実現しそうだ。来年5月19日からの札幌ドーム2連戦で早ければ激突する。日本ハム—巨人戦は4試合行われる)

#### ——中大での思い出を

「中大に入って大勢の方々に助けてもらいました。1年の時はベンチにも入れませんでした。みなさんに応援いただきました。本当に感謝しています。プレーで恩返しをしていきます」

### 知っていますか

#### 日本ハムのベンチは三塁側

日本ハムの本拠地、札幌ドームでのベンチは三塁側。2004年に本拠地を札幌に移転してから三塁側とした。「こちらのほうが(球場の構造上)便利だから」というのが理由。野球規則(ルールブック)には本拠地は一塁側という決まりはなく、自由に選べる。(参考・日本野球機構HP)

#### 鍵谷投手はスキーが得意

鍵谷投手はスキーが得意だ。「小学1年でジュニアのタイトルはすべて取りました。4年生で大人対象の一般3級(5~1級)に合格して、スキーはもういいや、と野球に打ち込みました」と本人。

一般2級以上は難関であり、小学生で3級というのは“五輪候補選手”。「スキーは今でも好きですが、けがが怖いので控えています。年に1~2回行く程度です」





# 巻頭特集

地元北海道に凱旋入団 中大のエース鍵谷陽平投手、日本ハム3位指名受ける

## 中2の時、日本ハムがやってきた

日本ハムは2004年に東京から札幌ドームを本拠地とする北海道に移転。チーム名を「北海道日本ハムファイターズ」とした。1990年9月生まれの鍵谷少年にとって、13歳の春の出来事だった。移転初年度の観客動員数は前年より約30万人増の約162万人。以下は本人の回想である。

「子供のころから野球が好きで、よくテレビで巨人戦のナイター中継を見ていました。僕の実家は函館にあります。プロ野球が夏に遠征試合で来ていました。野球好きな街でプロ野球といえば巨人

でした。

ファイターズが北海道に移転してくると状況は一変。親と親戚がファンになり、近所や学校でみんなが応援し始めた。高校野球で2004年、05年と駒大苫小牧高が夏の甲子園大会を連覇して、野球熱がさらに盛り上がったころでした。ピッチャーは楽天にいる田中将大さんです。

野球がぐっと身近になり、やる気も増しました。高校(北海)時代は学校と札幌ドームが近いこともあって、プロ野球といえばファイターズでした。ありがたいことに北海道には応援してくれる人がたくさん

います。親もたぶん見に来てくれると思います。みんなのためにもプレーで恩返しをしたいと思います」

日本ハムのファンは温かい。投手が「ボール3」になるとスタンドは激励の拍手と声援を送る。ほかの球団・球場では見られないことだ。ファンが座席近くでジャンプする「稲葉ジャンプ」は全国的に有名で、テレビ画面が揺れて見える。鍵谷投手は地元出身。観客の応援にもさらに力が入ることだろう。観客動員数はことし約186万人超。ソフトバンク(約245万人)に次ぐ2位だった。

### ■北海道移転後の日本ハム年度別成績

年度	監督	順位	勝	敗	分	勝率	観客動員(人)
2004	ヒルマン	3	66	65	2	5.04	161万6000
2005	ヒルマン	5	62	71	3	4.66	136万5643
2006	ヒルマン	1	82	54	0	6.03	160万3541
2007	ヒルマン	1	79	60	5	5.68	183万3054
2008	梨田昌孝	3	73	69	2	5.14	187万3931
2009	梨田昌孝	1	82	60	2	5.77	199万2172
2010	梨田昌孝	4	74	67	3	5.25	194万5944
2011	梨田昌孝	2	72	65	7	5.26	199万0338
2012	栗山英樹	1	74	59	11	5.56	185万8524



身長177cm、体重80kg

### ■鍵谷投手 中大全成績

年	季	試	勝	敗	投球回	防御率
1	春		(出場機会なし)			
	秋		(出場機会なし)			
2	春	4	0	1	17 2/3	2.04
	秋	9	3	2	29 1/3	1.23
3	春	7	2	1	18 1/3	1.96
	秋	8	1	1	23 2/3	3.80
4	春	9	1	4	50 1/3	1.43
	秋	6	2	2	37	0.97
		43	9	11	176 2/3	1.53

## 沢村先輩に追いつけ追い越せ

(学生記者 矢嶋万莉子=法学部2年)

多くの記者が集まったドラフト会見で私は奇異に感じた。質問が鍵谷投手へのものではなく、中大の2年先輩、沢村拓一投手(巨人)との関連が多かった。

地元北海道の球団からの指名ということもあり、指名された感想や日本ハムに所属する憧れの選手を問われ、「応援していた球団の一つ。指名されてうれしい」「ダルビッシュ有投手と増井浩俊投手」と答える場面もあった。が、記者の質問はだんだんと「在学中の沢村との関係」にシフト。鍵谷投手も真剣な顔で「尊敬しているし、目指すところにいる人」と先輩絡みの質問に嫌がる素振りを見せなかった。

### ●見方が変わる

横で聞いていた私は当初、「もう少し本人について聞いてもいいのに…」とも思ったが、2年生の時に負ったけがの質問では「沢村さんだけがしていたので、自分も乗り越えられると思った」という言い回しで、常に沢村先輩を意識していることを明かした。これで私は納得した。記者が質問で沢村投手を意識させるのではなく、鍵谷投手自ら意識している。そう知った瞬間である。

沢村投手が在学中に「2人で練習したのか」という問いに「ウエイトレーニングやシャドーピッチングを学んだ。なにより野球に対する姿勢を教えてくださいました」と技術面はもちろん、あらゆる面で先輩が大きな存在であることを強調した。

プロを目指す沢村さんのすべてを見ている。その一挙手一投足は、

自分にとってプロへの道のガイドブックになる。間近で背中を追い続けた2年間は大きな糧となり、鍵谷投手を支えていることを示した。

大いなる目標の沢村先輩は、プロ野球日本シリーズ巨人-日本ハム第2戦(東京ドーム、10月28日)で8回3安打無失点と好投した。勝負に生きる凄まじい表情もクローズアップされた。原監督の目に「非常に頼もしく感じた。ワンランク上がった」と焼きつけた。

ドラフト指名を受けて、鍵谷投手が「見方が変わる」と述べたその舞台での力投は、まるで後輩に見せつけるようだった。「次は鍵谷だ」と言わんばかりに。

尊敬する先輩はどこまで先へ進んだのか、この2年で後輩はどこまで近づけたのか。新しい楽しみ方が加わった私たちも見方が変わるに違いない。



会見の最後に野球部員と全員集合の記念写真